

ワーキングペーパーシリーズ

No16-7-1

第24回参議院議員通常選挙に関する緊急アンケート調査の結果について

横田 耕一

黒木 宏一

2016年7月8日

稚内北星学園大学情報メディア学部

横田研究室

※ このワーキングペーパーは、稚内北星学園大学情報メディア学部横田研究室並び連携・協力研究者の研究成果をとりまとめたもので、幅広い議論を期待して発表するものです。論文で示された意見は、執筆者個人に帰するものです。転載を行う場合は、当研究室へご連絡願います。(不許複製)

第 24 回参議院議員通常選挙に関する緊急アンケート調査の結果について

稚内北星学園大学情報メディア学部 客員教授 横 田 耕 一
稚内北星学園大学情報メディア学部 講師 黒 木 宏 一

キーワード：選挙権年齢引下げ、参議院議員、選挙、アンケート

1. はじめに

本調査は、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられ若者の動向が注目されている中で、新聞等メディアにおいて道内他地域の学生等若者の選挙への関心や動向の把握が進められていることから、本市においてもこれらのことを把握することが必要であると思料し、企画実施した。

2. 調査概要

本調査は、平成 28 年 6 月 27 日に大学に実施を届け出、翌 6 月 28 日に受理されたので、稚内北星学園大学及び稚内大谷高等学校に依頼し、両校に在籍する有権者（平成 28 年 7 月 10 日現在 18 歳以上の者）を対象として、平成 28 年 6 月 29 日から平成 28 年 7 月 6 日に実施した。

概要は図表 2-1 のとおりである。

回答者の属性は、図表 2-2 および図表 2-3 のとおりである。

3. 調査結果

調査結果は、図表 3-1 から図表 3-5 のとおりである^(注1)。

4. 考察

この調査は、主として選挙年齢の引き下げによって新たに選挙権を得た若者の意識を探ろうと企画した。緊急に行うこととなったため、稚内北星学園大学、及び稚内大谷高校の

協力を得、大学生・高校生に対して行ったものである。したがって、有職者は残念ながら対象から外れていることを了承いただきたい。

前述したように、メディア各社は選挙年齢引き下げ後はじめての選挙であることから、18歳から19歳の新有権者の動向には大きな関心を持ち、それぞれ数度の世論調査を実施している。

以下、本調査の結果を概観する。

この選挙での投票行動（予定）では、（本学では23歳までの在学生を対象にしている）全体の75.3%、男性71.2%、女性82.4%が投票に行くと考えている（図表4-1）。先日の読売新聞の調査（読売新聞社[2016]）では40%ということであるから、きわめて高い数値である。18歳～19歳で見ると、それでも71.7%に達した（図表4-2）。

投票に向かう意識としては、権利であり義務だという思いを持つ人が多く、かつ、自分の1票に積極的な考えを示している。「自分の意見に近い人に投票したい」「若者に有利な人を」「自分のために良い政策を掲げている人を」「自分の1票で変わるかもしれない」などと初めての選挙に期待をこめている。一方、「使えない人が議員になったら困る」という回答もあった。

また、投票に行かないと答えた人の中では、親元から離れているがゆえに、全国でも課題になっているが、住民票の問題を挙げる人もいた。いまだ選挙について、また、政治について「よく分からない」したがって判断ができないという層も多くあった。

この意味では、投票に行くという層が全国に比して高いようではあるが、関心を向けさせる十分な時間があつたのかどうか疑問であり、特に、学校教育の場でしっかりした学習機会を保障することが求められるのではないか。結果によっては準備不足との批判を免れないかもしれない。

ちなみに、選挙権が引き下げられたことへの問いでは、分からないと答えた人が50.0%に上っており、良くないと答えた人も16.3%あつた。

政治に期待することとしては、社会保障政策が51.6%、雇用環境が53.8%、地方の活性化が41.8%、子育て政策が36.3%、安全保障が34.1%であつた。憲法問題は関心も比較的高く15.4%になった。現時点では憲法問題と安全保障は不可分の関係にもあるので、若者にも関心が高まっているように見える。

この点で、強く印象付けられたのは、「地方の活性化」と答えた人が3番目に多かったことである。稚内に残り、学習を続けている若者にとって、将来にわたっての生活拠点となるこの地方の活力に大きな関心を寄せてくれているということに他ならないと思う。このことへの関心は、特に大学生に高かった（図表4-3）。地元で大学に通うということは、基本的に地元で就職をし、生計を立ててゆこうという意志に違いない。それはあまりに希望的に過ぎるかもしれないが、地元志向は他の調査にも現れている。高等教育の充実、地方にとっても欠かせないという証左と考える。

最も多かった社会保障への関心は、当然の結果だろう。本市の若者であっても年金等将来不安が高いということに他ならない。高齢者の福祉向上を図ることは元よりではあるが、それ以上に、若者が将来も安心して暮らせる環境を作り上げることも重要なことだ。子育て政策への関心も36.3%ある。また、教育や医療の充実を自由回答で答える人々もいる。特に、奨学金のあり方への関心は高そうだ。

今回の選挙は国政選挙であるが、若い人たちの関心は身近な生活へ向いている。しかし、身近な生活の充実が国政の方向に左右されることも多く、その意味では投票に行くと答えた人が非常に高かったという意味で、ほっとした。次代を担う若者がこうした国の進路に一定のかかわりを持つことに否定しないが、いっそうしっかりとした啓発や教育現場での取組みが求められるのではないだろうか。また、世界的な傾向と危惧される世代のギャップを広げ困難を増大させないためにも、さまざまな格差を解消していく取組みが新たな選良に期待されるし、若者にそっぽを向かれ、政治不信の増大を招くことのないよう行動し、清貧で尊敬を集める議員が選ばれることを心から願う。

謝辞

本調査を実施するにあたり、稚内大谷高等学校及び稚内北星学園大学の協力を得た。学校長、学長をはじめ両校の教職員並びに学生各位に謝意を表します。

注釈

注1 大学でのみ「支持する政党について」の設問を設けて回答を得たが、公職選挙法の規定により公表しない。

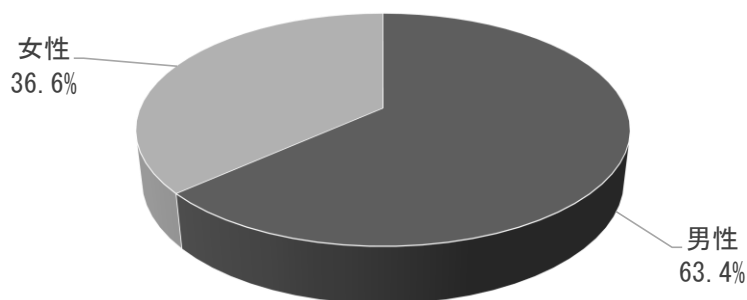
参考文献

[1]読売新聞社(2016)「18、19歳「関心」上昇67%…本社世論調査」YOMIURI ONLINE、平成28年7月6日。

図表 2-1 調査概要

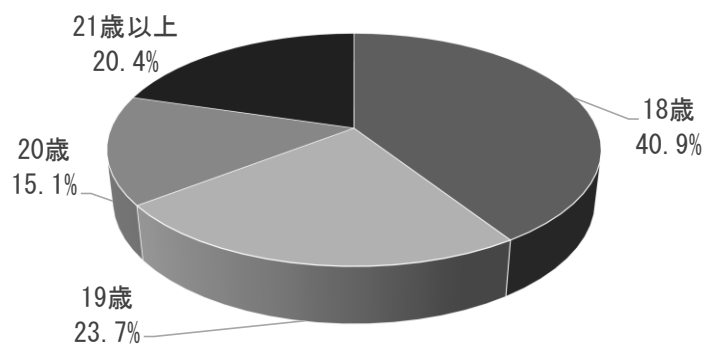
有効回答数	93 件
調査項目（設問）	
性別	
年齢	
選挙に行くか否か及びその理由	
選挙権の 18 歳引き下げについて	
政治に期待することについて	
支持する政党について（大学のみ実施・非公表）	

図表 2-2 回答者性別 (N=93)



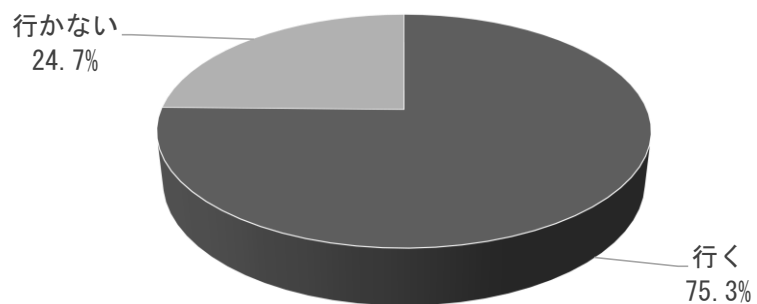
注：該当設問への回答数を「N」で表記した。以下の図表において同様。

図表 2-3 回答者年齢 (N=93)

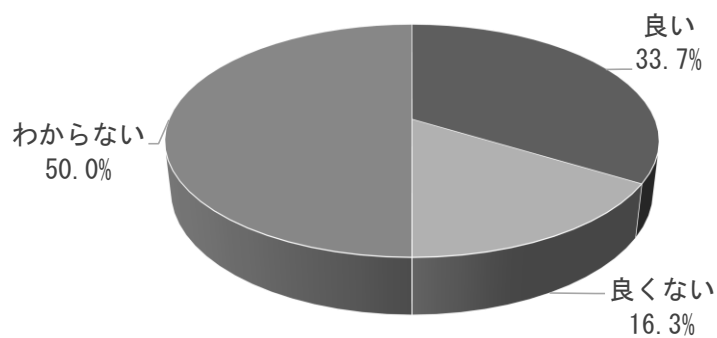


注：小数点以下第 4 位を四捨五入したため、1.000 (100.0%) にならない。

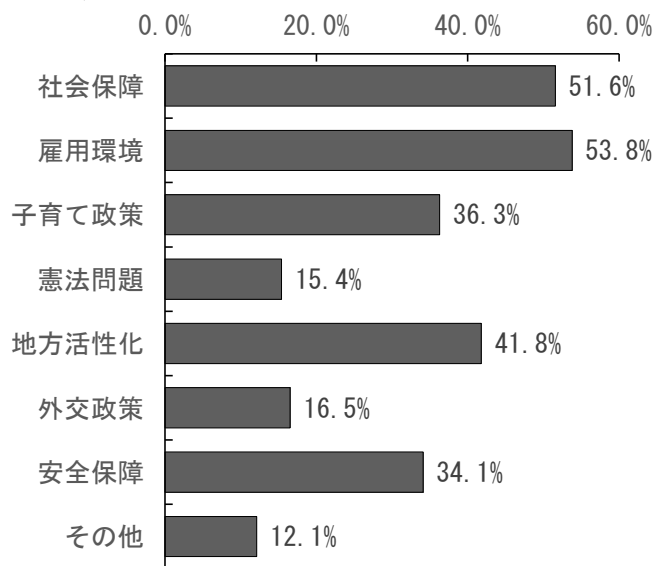
図表 3-1 選挙に行くか否かについて (N=93)



図表 3-2 選挙権年齢の引き下げについて (N=92)



図表 3-3 政治に何を期待するかについて (N=91)



注：「その他」として、「期待していない」「教育」（3件）「教育への資金の充実」「奨学金」「奨学金制度」「特定疾患の医療費免除」「変なことをしないように」という記述があった。

図表 3-4 選挙に行く理由

<ul style="list-style-type: none">・18歳を自分が満たしているから・いかなければならないため・いったほうがよさそうだから。・これからの日本のために行ったほうがいいかなと思うから・せっかくの権利があるので行ったほうが良いと思ったので・どういった様子なのか実際体験しに行く・とりあえずいきます・とりあえず行ってみるという気持ちがある・なんとなく・まだ未定だが一応・家が近いから・該当者だから (2件)・義務だから (2件)・義務であるから・興味がある・興味があるから (2件)・決まっていなが一応・権利があるので・権利だから・行かないといけないと感じだから・行かないよりは何かしたほうが良いと思うから・行かなきゃいけないものだと思うから。日本の未来がかかっているから。・行けるなら行く・行ったほうが良いといわれたから・国のため・国民の義務だから・国民の義務であると思っているから・参政権があるから・使えない人が議員になったら困るから・自分の1票で変わるものかもしれないから・自分の意見に近い人に投票するため	<ul style="list-style-type: none">・自分の一票で大きく変わるかもしれないから・自分の国について考えるため・自分の今後にかかわってくるから・自分の将来のためにいい政策を掲げている人を応援する・若者に有利なことになる人を選びたい・若者の投票率が低いから・若者投票率が低いから・初めてだから・初めてだから行く・初めてなので・少しでも政治に関心を持ちたいと思うから・親が行くため・親が政治に興味があるため・親に行けと言われたから・成人してから欠かさず投票に行っているから・政治などにかかわってみたいため・政治に関心があるから・政治のことをよく知ろうと思ったから・政治への協力・選挙になれるように・選挙権があるから・選挙権が与えられたから・選挙権の年齢が引き下げられたから・大人になろうとしている大学生として・大切なことだと思うから・投票したいから・投票したほうが良いと思うから・投票しないで政治に不満をぶつけるのは間違いだと思うから・投票率を上げたいから・日本の将来を決めるので・日本人としての義務として・友達だと行くと言っていたから。
--	--

注：自由記述を五十音順に並べ、そのまま掲載した。

図表 3-5 選挙に行かない理由

<ul style="list-style-type: none"> ・あまり興味がない (2件) ・いつあるかわからない ・いまだに政治を理解していないため ・だれに投票したら良いかわからないのに投票できない ・だれに投票して良いか分からない ・めんどくさい (2件) ・めんどくさい。誰が良いのかわからない。 ・よくわからないから ・興味がない ・行くか迷っています ・行く暇がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・行く時間がない ・住民票を移していないから ・選挙について全く情報がない。内容を理解しているわけでもないのに票を入れたくない。 ・誰に入ればいいのか分からない ・地元に戻れないため行けないから ・面倒であるから。関心がないわけではないし若者は投票に行くべきだと思うが。 ・予定が合うかわからないため ・用事があるから ・(秘匿) に住民票があるため
--	---

注1：自由記述を五十音順に並べ、そのまま掲載した。

注2：個人情報に該当する箇所は秘匿処理した。

図表 4-1 性別と選挙に行くか否かのクロス集計表

		投票に行くか		合 計
		行く	行かない	
性別	男性	42	17	59
		71.2%	28.8%	100.0%
	女性	28	6	34
		82.4%	17.6%	100.0%
合 計		70	23	93
		75.3%	24.7%	100.0%

図表 4-2 年代と選挙に行くか否かのクロス集計表

		投票に行くか		合 計
		行く	行かない	
年代	10歳代	43	17	60
		71.7%	28.3%	100.0%
	20歳代	27	6	33
		81.8%	18.2%	100.0%
合 計		70	23	93
		75.3%	24.7%	100.0%

注：「10歳代」とは回答者のうち18歳～19歳を、「20歳代」とは回答者のうち20歳以上の者を指す。

図表 4-3 「地域の活性化」を選択した回答者の属性（学校区分）

	学校区分		合 計
	大学	高等学校	
地域の活性化	32	6	38
	46.4%	25.0%	41.8%

注：学校区分ごとの割合はそれぞれ学校区分ごとの回答数で、合計列の割合は回答数（N=91）のうち「地域の活性化」を選択した回答数で、それぞれ除した値である。

